

事業所名： グループ・ホーム杜の家自遊舎

# 自 己 評 価 票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所の理念に基づき運営されている。その内容は、重要事項説明書、パンフレットに記載している。	○ 今後も継続していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	取り組みについての理解を深めてもらうよう、話し合いをするとともに、外部評価等を利用して理念の共有と実践の理解に努めている。	○ 今後も継続していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	職員は、地域住民から事業所の内容について質問された際には、丁寧な説明を心掛けている。また、法人役員、運営推進委員、第三者委員などの関係者がそれぞれに地域住民へ報告している。	○ 今後も継続していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事に積極的に参加しながら、地域住民への理解の浸透に努めている。また、利用者が散歩するときなど、お互いに挨拶を交わし、地域の方が来訪したり、小学生が来訪することもあり、普段から気軽な付き合いができるように努めている。	○ 今後も継続していきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園行事、小学校行事、婦人会行事、老人クラブ行事など地域の行事に参加し、地域住民と交流している。	○ 今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に行っていない		老人クラブ・婦人部などとの交流を通して、地域の高齢者の状況を把握し、認知症予防の支援に努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、外部評価前に各職員が自己評価票を活用して評価を行い、全職員でその評価について検討会を行っている。また、日々の取り組みを重視しており、丁寧な取り組みに努めている。		今後も継続していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度より取り組み始め、定着している。委員の出席率も高い。		今後も継続していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当課へ都度連絡や来訪を心がけ、情報を共有している。		サービス担当者会議などへの積極的な参加をしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	両制度の理解を深めつつ、地域包括支援センターや町社協等と実際に当利用者のケース検討を行った経緯がある。		今後も必要な利用者があれば、行いたい。また、研修や資格試験の勉強を通じて、職員の理解を深めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待は確実に予防されている。職員間においても頻繁に話し合いを持ち、職員のストレスがたまらないよう努めており、虐待の防止は徹底されている。	○	今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、契約書・重要事項説明書を提示し、口頭でも十分に説明を行い、本人や家族の理解と納得を図っている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員が都度、利用者の対応を行っている。外部者へは、居宅療養管理指導の際に医師へ、また帰省や面会時に話している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の日々の生活ぶりについては、毎月の手紙で報告し、緊急性のある内容については、家族等へ電話や訪問などで対応している。</p>	<p>○</p> <p>このことによって協力してくれる家族も増えてきているので、今後も継続したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の要望等について、来訪時などに十分に聞くように努めている。時間をかけることにより、家族との関係が好転してきたこともあるが、全家族が意見を出し、それを十分に反映できているかは判断できない。また、外部者へ表す機会が不足している。</p>	<p>アンケート等を充実させたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議や1対1の意見交換をする機会がある。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整が必要な場合は、職員間で話し合いを行い交代するなど、柔軟に対応している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人員基準を満たせるよう、即対応しているが、どうしても人手が不足するときは、時間外勤務などで対応している。</p>	<p>スタッフ確保の上で、立地上の条件が困難であり、その面での情報を得てゆきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県内で行われる研修会に職員が参加し育成の機会を作っている。</p>	<p>今後もこのようにしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>具体的に取り組みは行っていない。</p>	<p>そのような機会があれば、大いに活用したい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>可能な限り2日間の連続休暇が取れるシフトを組んでいる。また、職員間での話し合いにより休暇を調整している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日常業務の中で介助方法を指導するなど、職員のスキルアップに努めている。また、研修等に参加を勧めている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>当初から信頼関係を築くことは困難だが、時間をかけて利用者が安心できる環境をつくり、要望等を引き出す取り組みを行っており、効果も上げている。そのため、認知症でよく見られる妄想や帰宅願望などの周辺症状は消失してゆく。</p>	<p>○ 今後も継続していきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの要望を聞きつつ、気軽に話ができるような雰囲気作りに努めている。それによって信頼関係ができ、家族の不安が少なくなっている。</p>	<p>○ 今後も継続していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に管理者・主任が担当しており、誠実な対応に努めている。また、その時の様子や内容について職員へ報告をして、全職員による一致した対応ができるよう努めている。		どの職員でも相談を受けることができるような、指導とその訓練も必要であると考えている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の不安を少なくするよう、管理者や職員が話し相手になるなど対応している。あるいは家族と連携して不安を少なくするよう努めている。しかし、緊急性がある場合には、入居してから馴染んでもらえるような工夫をし、安心して生活できるような対応に努めている。		バリテーションのテクニックなどを用いて、感情の共有におもむきをおく努力をしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や料理の下ごしらえや食事の後片付け、山菜取りなど利用者が得意とすることなどを活用し、学び支えあう関係作りに努めている。	○	今後も継続していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの協力を得ることで利用者が理解してくれることがある。利用者がストレスを抱えている場合、家族がそれを解消してくれることがある。	○	家族との関係が疎遠にならないためにも、支援のあり方を先に考えていくというスタンスをとっている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居当初だけでなく、問題が発生するたびに家族へ連絡し、これまでの本人の状況(生活や性格、行動等)を聞く機会をもち、本人の理解に努めながら、本人に対する家族の変化を期待し、関係性の改善に努めている。	○	今後も継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要に応じて距離感を変化させている。本人の馴染みの人や場所が断絶しないことを前提とし、タイミングをうかがいながら適切な支援に努めている。	○	今後も継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士はほとんど自由にかかわりをもたせている。孤立する利用者への対応は十分とはいえないまでも、スタッフを間において間接的に関わられるような配慮に取り組んでいる。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要がある場合は誠実に対応している。	○	最近は行われていないが、今後もそのようなケースがあれば、対応してゆきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意向を汲むようにしている。一人になりたいとき、体調が優れないときなどに無理させない配慮を行っている。本人が昼寝をしたい場合なども、希望を優先させるが、昼夜逆転にならないよう、声がけなどして対応している。		今後も継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を十分に聞きながら、本人の行動を観察し、家族からも利用者本人の情報を得て総合的に判断し、職員間で十分に検討を行いながら対応している。		今後も継続していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の希望を尊重しつつ、集団生活で最低限守る必要のある内容については説明する。本人の体調や能力を可能な限り見出し、それに合わせた援助を試みている。		今後も継続していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、医師など関係者と話し合いを持ち、それを職員間で打ち合わせ、総合的な援助方法を検討し、介護計画に活かすよう努めている。		ケアプランの中に、ご家族や本人の意向が十分盛り込まれるようなシステム作りをしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成した介護計画を見直し、関係者の意見や要望を取り入れながら、現在の本人の状況を鑑み、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	○	今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼間・夜間日誌を中心に、検食日誌にも詳しく記入している。また、個別の状況を把握するため、様々な記録方法(個別ケース記録、排便チェック、投薬表など)に組み込み、利用者の個別の状況を全職員が把握できるよう努めている。また、日誌等の記載に工夫が必要な場合は、日誌等を適宜変更している。	○	今後も継続していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族が希望した場合、町内外の通院に対応している。利用者が希望した墓参りや兄弟姉妹の家への訪問に対応している。敬老会や保育所、小学校などの行事に利用者が参加する際の送迎等、利用者の要望に可能な限り対応している。	○	今後も継続していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察(駐在所)が調査に来た。また、消防署も立ち入り検査、救命講習などで協力を得ている。移動図書も利用している。近所の見守り体制を確立し、お願いしている。		今後も継続していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センター主催の包括ケア会議、ケアマネ会議等で意見交換をしている。また、地域包括支援センターと必要に応じて情報交換するよう努めている。		今後も継続していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	当利用者について個別に権利擁護制度活用を検討を行っている。地域包括支援センター主催の会議においても、情報交換し協働に努めている。		権利擁護については、手続きや本人を取り巻く人たちの複雑な心情があり、進まない現状にある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	沢内病院の居宅療養管理指導の活用、もりおか心のクリニックの専門科受診、家族の要望による他病院の受診など、その都度適切に必要なとする医療機関への受診へ対応している。また、様々な検査が必要な場合、適宜行っている。		今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	もりおか心のクリニック受診を中心に、必要に応じて管理者・家族が密に相談し、連携が取れている。	○	今後も継続していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎月の居宅療養管理指導で、医師と看護師が来訪し利用者を診察していく。その際に、利用者の日常生活等についてその専門性を活用している。	○	今後も継続していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	実際のケースも数件あり、各医療機関とも連携ができています。また、今後の連携についても相談していく予定である。		今後も継続していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	既に重度化・終末期・看取りのケースに対応を行っている。その場合、家族、医療機関との連携は不可欠であり、密に連絡を取り合いながら対応してきている。職員もそれらに対応できるよう備えている。	○	今後も継続していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記同様	○	今後も継続していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設への入居が数件ある。その際には、当施設での生活ぶりなど情報提供を行うなどの工夫に努めている。また、新しく入居した施設から連絡があれば、情報提供するなどの対応している。	○	今後も継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への丁寧な声かけなどを心がけている。記録等の個人情報の取り扱いに関しても丁寧に行うよう更に徹底していきたい。	今後も継続していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	表情から、その思いを汲み取るための感性を磨く努力をしている。また、問題があるときはなるべく、本人と気の合うスタッフが対応するようにしている。	今後も継続していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ができること、したいことに対して、その希望に協力し、支援している。	○ 今後も継続していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者は近所の理美容室に行くこともある。本人の希望に基づいて、職員が対応している。また、お盆帰省などの時に家族が理美容院に連れて行くこともある。	○ 今後も継続していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付け、下ごしらえを中心に準備や後片付けに利用者が積極的に関わっている。食事においても本人が苦手としている食品一人一人に合わせた提供をする。噛み切れない場合や食べにくい場合など食材を刻むなど食べやすい大きさにする工夫も必要に応じて行う。	今後も継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	塩分や水分量をチェックし、その上で、本人の嗜好に合わせていけるよう努力している。	○ 今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者本人の残存能力は可能な限り引き出すよう努めている。それでも、失禁等をする場合には、オムツ等で対応せざるを得ないが、できるだけトイレへ誘導し排泄していただけるように対応している。	○	今後も継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者がゆっくり湯船につかることができるよう配慮している。本人ができないことなど援助することども、自立している部分は見守りの支援をしている。		今後も継続していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	病気安静時、寝不足などにより休息が必要な場合に、利用者の体調、状況に合わせて適宜対応している。	○	今後も継続していきたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が積極的に行うこと(後片付け等)を中心に張り合いが持てるような支援を心がけている。近隣の小学校行事等を見学するなどの外出で気晴らしができていと良いと思う。		今後も継続していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、職員は金銭管理に関わっていない。		今後も継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	主に職員が外出支援を行っているが、時々家族の協力を得ながら、本人の希望にあわせて外出支援を行っている。また、本人が希望する場合は、公共交通機関を利用して外出することもある。	○	今後も継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望や職員の発案により、無理強いすることなく外出する機会を作っている。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の対応は、頻繁に行っている。手紙に関しても、本人が書ける場合には、本人の希望をとって支援を行っている。	○	今後も継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族などが訪問した時には、利用者によっては自室でゆっくり過ごしてもらうことに心がけている。気軽な訪問ができていると思う。	○	今後も継続していきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアへの取り組みをしているが、今後研修会等へ職員が参加し、現状を把握するなどより深い理解に努めていきたい。	○	今後も継続していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	本人が必要としている場合を除き、鍵をかけずに生活している。利用者の不意の外出に備え、正面玄関には鈴を取り付けて、職員が気づくよう工夫している。ただし、職員用出入口は頻繁に職員が出入りするので、安全上施錠している。		今後も継続していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の居室への出入は、本人に許可を得て入室している。利用者全員の所在は各職員が把握できている。		今後も継続していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各利用者の状況を把握し、状況に合わせて対応を行っている。(例:ふらつきの多い利用者の安全のため、夜間には机やイス、車イスなどを居室の外に出すなどの対応をしている)		今後も継続していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための研修会等に参加し、職員全員で学習する機会を設けており、職員間で話し合い、検討している。災害訓練、救命講習などを実施している。近隣に見守りのお願いをし体制作りをしている。		今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	避難訓練を定期的に行い、年1回程度、それにあわせて普通救急救命講習を行っている。		職員の新規採用の際など、何がしかの機会を設けたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定避難訓練を中心に、積極的に訓練を実施し、職員の非常時の対応、連絡体制や方法などを検討する機会を多くもっている。		今後も継続していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況が変化するたびに、家族等へ十分な状況説明を行い、内容を周知してもらっている。	○	今後も継続していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状況が変化した場合、そのケースに合わせた個別記録等を作成し、様々な分析を試みている。その情報を関係者等にも提供し、円滑な対応が可能となっている。	○	今後も継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	過去の薬と現在の薬についてそれぞれファイルに綴り、全職員が利用者の服薬に関する情報の共有ができるように努めている。また、服薬の変化があった場合には、日誌にその詳しい内容について記載し、情報共有を行っている。	○	今後も継続していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	服薬も含め、利用者の体調把握に努め、排便記録をとりながら対応に取り組んでいる。便秘や下痢になっているような状況の場合には、水分量の調整や食べ物(寒天の提供や繊維質の食品)の摂取で工夫している。	○	今後も継続していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きが自立している利用者へは積極的に声掛けしている。義歯の手入れができない利用者へは職員が援助し、一人一人に合わせた対応を心がけている。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段は、カロリー計算をして野菜をふんだんに取り入れた食事を提供している。嚥下困難な人に対しては、粥や、ミキサーを使うなどして流動性の高い食事を提供するなど、利用者個々の状況に合わせた食事提供を行っている。また、利用者の体調や姿勢に合わせて食事場所を工夫している。	○	今後も継続していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	特に専門的な取り決めをしていない。基本的な予防として、うがい手洗いをし、感染症が流行る時期は特に基本予防の徹底に努める工夫はしている。		今後も継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限・消費期限のチェックをはじめ、冷蔵庫、食料庫の管理を行い、調理後も食事前に試食するなどして、新鮮な食事提供に心がけている。		今後も継続していきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いかにも施設があります、というような状況でなく、この土地を活用し雰囲気に溶け込むような配慮を行っている。		今後も継続していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは自然の光が十分に入るようにしている。また、玄関と洋式トイレも自然の光が長時間入るよう、天井を工夫している。台所は、ホールや和室から見ることができ、調理の音も聞こえるようになっている。生活感がでるよう、共用の家具も古いものを取り入れ、四季にあわせて飾りや草花での装飾の工夫も行っている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに利用者が集合することが多いので、和室は一人になることができる場所にもなる。また、各自居室で仲の良い利用者同士入室して、思い思いに過ごしており、一人になりたい時は、利用者自身が居室で過ごしている。そういう場合にもお茶などはホールで他利用者と一緒に過ごせるよう声などに配慮している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	本人の馴染みの家具などを持ち込んで、自分の部屋という 意識をもっていただけていると思う。家具ばかりでなく仏壇や 位牌などを持参している利用者もいる。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	空調の管理は、ホールと玄関にある排煙装置、およびホー ルにある大型の換気扇によって、空気の流れができるよう工 夫されている。室内が暑い場合には、ホールに隣接している 居室の利用者に断って、部屋の窓と扉を開放してもらい、空 気が流れるようにしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	浴室の手すりは、介助を必要とする利用者も使用し、自力 で浴槽から上がれる工夫がされている。また、本人の残存能 力にあわせ介護用品は必要最小限にとどめる工夫をしてい る。また、本人の必要の有無によって臨機応変な対応を行っ ている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	「便所」の表示や洋式、和式トイレの夜間灯を取り付けてい る。また、体調を崩した利用者には、内容のわかる表示を必 要なときに貼り出して、回復した後に必要ないと判断したと きは処分するなどのここの対応を行っている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	天気がよく、あまり暑くない日を選んで、ベランダに出てお 茶を楽しんでいる。また、建物入り口の明るく、風通しの良い 場所でスイカを食べたり、芋の子会や餅つきなど季節行事を 行うこともある。	○	今後も継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

服用している薬があるのか、その人にとってのバイタルは表情や体調と一致しているのか、それらのことに日々注意を向ける。副作用などに苦しんでいることがないように見極める目を養うような訓練に心がけている。